

鴨川市教育委員会 2 月定例会議事録

- 1 日 時 令和 3 年 2 月 1 8 日 (木) 開会 午後 2 時 0 0 分
閉会 午後 4 時 0 0 分
- 2 場 所 天津小湊支所 2 階 会議室
- 3 出席委員 (1) 月岡正美 (2) 根本新太郎 (3) 石井千枝
(4) 永島康弘 (5) 吉原里夏
- 4 出席職員 (1) 三浦 徹 (2) 長谷川幹男 (3) 石川丈夫
(4) 石井利彦 (5) 真田幸俊 (6) 鈴木昭彦
(7) 加藤貴之 (8) 犬石貴久 (9) 鎌田悦子
- 5 傍聴者 なし
- 6 教育委員会 1 月定例会議事録の承認
 - ・ 月岡教育長から、1 月定例会議事録について、訂正等の確認がなされ、質疑なく、全員の了承が得られた。
- 7 教育長・委員報告
 - ・ 月岡教育長から、1 月定例会議以降に教育長が出席した行事等の内容について、別紙報告書をもとに報告がなされた。
- 8 報告事項
 - (1) 令和 3 年度第 1 回鴨川市議会定例会について
 - ・ 石川生涯学習課長、三浦学校教育課長から、令和 3 年度第 1 回鴨川市議会定例会について、資料をもとに説明がなされた。
 - ・ 永島委員から、答弁では市民会館の必要性に言及していたが、入場者数との関係から文化体育館での代替について質疑はあったか、との質問がなされた。
 - ・ 石川生涯学習課長から、昨年の公民館まつりで文化体育館を使用しており、活用も可能と考える、との説明がなされた。
 - ・ 月岡教育長から、文化体育館は音響や照明設備が不十分であり、使う内容によっては可能なものもあると考えるが、音楽活動や演劇などには不向きである。今後、学校の体育館や仮称さとうみ学校の体育館を使って行事を行っていくことになるが、専用のホールと比べて劣る部分もあるので、どうしてもというこ

とであれば、館山の南総文化ホールや勝浦のキュステを使っただき、そのための経費は市が補助する。財政状況が好転すれば、教育委員会としては市民会館に代わる施設が望ましいと答弁した。以前に作ろうとしていた多目的ホールは、音響や照明設備が不十分なので、今までの市民会館と同じような設備で、市全体として多目的に使える施設がふさわしく、財政状況が好転したら改めて協議していく必要がある、との説明がなされた。

(2) 鴨川市教育振興計画（第3期 令和3～7年度）の策定について

- ・ 真田学校教育課長補佐から、鴨川市教育振興計画（第3期 令和3～7年度）の概要版と資料編について、資料をもとに説明がなされた。あわせて1月5日から2月3日の間、パブリックコメントを実施し、4件の意見が出された、との説明があった。
- ・ 石井委員から、「教育文化のまち」とはどのようなことか、との質問がなされた。
- ・ 月岡教育長から、「教育文化のまち」とは、教育と文化のまちという意味であり、鴨川としての思いを強く出すために、教育と文化の間の「・」や「と」をはずしている、との説明がなされた。

(3) 令和2年度の教育委員会の点検と評価予定について

- ・ 鈴木主任管理主事から、令和2年度の教育委員会の点検・評価予定について、資料をもとに説明がなされた。

(4) 令和2年度鴨川市立幼保連携型認定こども園教育の成果と課題について

- ・ 鎌田主査から、令和2年度鴨川市立幼保連携型認定こども園教育の成果と課題について、資料をもとに説明があった。
- ・ 吉原委員から、昨年、江見認定こども園の公開研究会を参観し、改めて幼児教育の重要性を認識した。幼児期に成功体験を積み重ねることで、自己肯定感を持って次のカリキュラムに進むことができると考える、との意見がなされた。
- ・ 石井委員から、保育教諭の資質の向上とは具体的に何か、また、認定こども園等に通園せず、小学校に就学する幼児はどの程度いるのか、との質問がなされた。
- ・ 鎌田主査から、保育教諭の資質向上とは、「幼児を肯定的に見る」「一人一人の特性に応じた教育」と考える、との説明がなされた。併せて、次年度、小学校への入学者で、認定こども園等に通園していない幼児はいない、との説明がなされた。
- ・ 永島委員から、3歳以上を担当する保育教諭は何名いるのか、との質問がな

された。

- ・ 石井子ども支援課長から、公立認定こども園6園で正職員が約70名、臨時職員が約70名である、との説明がなされた。
- ・ 石井委員から、男性職員はいるのか、との質問がなされた。
- ・ 石井子ども支援課長から、2名の男性正職員がいる、との説明がなされた。
- ・ 石井委員から、他市では男性の保育教諭が定着しないと聞いたことがある。以前、見た保育園では、男性の保育士がいることで運動会の内容や遊びの種類が異なり新鮮であった、男性の保育教諭がいるとよい、との意見がなされた。
- ・ 石井子ども支援課長から、募集をかけても男性の希望者がいない、との説明がなされた。
- ・ 吉原委員から、ハンデを持っている幼児の受け入れはどうか、との質問がなされた。
- ・ 鎌田主査から、鴨川市はハンデを持った幼児の受け入れを積極的にしている。本市では多くの職員の配置により、一人一人に対応した教育が行われている、との説明がなされた。
- ・ 吉原委員から、医療行為のある幼児の受け入れは難しいか、との質問がなされた。
- ・ 石井子ども支援課長から、受け入れには、看護師など必要な職員の配置も考えねばならない、との説明がなされた。

(5) 令和2年度鴨川市いじめ問題対策調査会について

- ・ 加藤指導主事から、令和2年度鴨川市いじめ問題対策調査会について、資料をもとに報告がなされた。
- ・ 月岡教育長から、現在も継続指導中の数値に留意するとともに、児童生徒の特性を含めて対応していく必要がある、との説明がなされた。
- ・ 石井委員から、教職員が常に気にかけて注意や賞賛を積み重ねていることが保護者との信頼関係につながっているので継続した指導をお願いしたい、との意見がなされた。

(6) 令和3年度・4年度の千葉県県立高等学校入学者選抜の日程について

- ・ 加藤指導主事から、令和3年度及び4年度の千葉県県立高等学校入学者選抜の日程について、資料をもとに報告がなされた。

9 議 事

(1) 鴨川市遠距離通学費補助金支給規則の一部を改正する規則の制定について

- ・ 三浦学校教育課長から、鴨川市遠距離通学費補助金支給規則の一部を改正す

る規則の制定について、資料をもとに説明がなされた。

- ・ 特に質疑無く、鴨川市遠距離通学費補助金支給規則の一部を改正する規則の制定について、挙手全員で承認された。

(2) 鴨川市地域学校協同活動推進事業実施要項の新規制定について

- ・ 石川生涯学習課長、犬石主査から、鴨川市地域学校協同活動推進事業実施要項の新規制定について、資料をもとに説明がなされた。
- ・ 永島委員から、県内他市町村の地域学校協働推進事業はどのような状況か、との質問があった。
- ・ 犬石主査から、安房地域では、鋸南町で学校支援地域本部事業と放課後子ども教室事業2事業が展開されており、館山市、南房総市は放課後子ども教室事業のみが実施されている、他地域では市川市、野田市、浦安市が先進的取組を実施しているとの説明がなされた。併せて、導入自治体からは、輪を広げたことで「知り合いが増えた」「支援の輪が広がった」との意見がある、との説明がなされた。
- ・ 他に質疑無く、鴨川市地域学校協同活動推進事業実施要項の新規制定について、挙手全員で承認された。

10 閉 会

閉会后、3月の教育委員会行事予定について、事務局より説明がなされた。

月岡教育長は、一切の終了を告げ、閉会を宣言した。

以上、会議の顛末を記載し、相違ないことを証する。

令和3年3月18日

鴨川市教育委員会 教育長 月岡 正美

教育長職務代理者 石井 千枝

議事録作成 (学校教育課長 三浦 徹)